

伊那食品工業株式会社 取締役会長 井上 修

講話「いい会社を作りましょう」をお伺いして。

” たかが寒天・されど寒天” 開口一番の会長の言葉です。

皆さんも寒天と言うと、あんみつの寒天やところてんなどを思い浮かべるのではないのでしょうか？ 現在寒天は食用のみならず、化粧品、医薬品、培地としても活用されているそうです。まさにたかが寒天されど寒天です。

企業の変革が強く求められている昨今、5%の隣接異業種への進出という話題をよく耳にされると思います。伊那食品工業株式会社の取り組みは、まさにその成功例だと思います。主商材の寒天の可能性をとことん追求し、その用途拡大によって新業種へ進出しているからです。

伊那食品工業株式会社の強さは、この経営戦略だけではありません。

本髄はその経営理念にあります。

「いい会社をつくりましょう～たくましくそしてやさしく～」を社是とし、常に先の事をはかりながら、ゆっくり確実に成長すれば、自分たちだけでなく会社をとりまくすべての人々の幸せに繋がるという「年輪経営」の実践にほかなりません。

かつて 2005 年に空前の寒天ブームが起こったことを覚えているでしょうか？ 私はちょうどその時期に塚原現最高顧問のお話を伺った事があります。塚原（当時）社長は「今が当社の最高の危機です」とおっしゃったのを今でも良く覚えています。寒天ブームにより、過去最高の経常益を計上したにも関わらず最高の危機と言ったその理由は、生産が追いつかず社員に過度な労働を強いる。欠品により納品業者に迷惑をかける。この状態が続けば誰も幸せにならないからだとおっしゃいました。そして、会社は富士の裾野のようにゆっくりと緩やかに成長することが望ましいと教えて下さいました。まさに年輪経営です。

さらに帰宅後講演の際に頂いた資料を読み、井上会長の人間力に強く感銘を受けました。

「今、一番の関心事」という題の寄稿を是非お読み頂きたい。井上会長の障害に対する向き合い方考え方、自身の病との対峙の仕方。すべてにおいて尊敬に値します。

会社は社長の器以上に大きくならないと言います。私は会社を大きくしたいとは思いませんが、従業員や弊社に関わる人々に幸せになって欲しいと願っています。その為に、自身が成長し少しでも器を大きくしなければと思いました。

株式会社右門 町田明美